具体的な治療法・指導技術を学ぶ

特定健診等に関する在宅保健師研修会

特定健診等に関する在宅保健師研修会は９月２日（水）、メルパルク京都で開催され、近畿地区２府４県から在宅保健師約１３０名が参加した。

開会にあたり、国保中央会の宮本保健事業部長は地域住民の健康づくりに関わる在宅保健師に必要な知識・技術を取得していただき、特定健診･特定保健指導に限らず、これからも地域での保健活動に励んでいただきたいと挨拶した。

午前の講演では、大阪糖尿病協会理事で大阪府医師会健康づくり推進委員会委員である中石医院の中石滋雄院長が、「糖尿病の病態について」と題して、糖尿病について説明し、様々な観点から詳しく治療法について紹介した。

午後からは、京都医療センター臨床研究センター予防医学研究室の同道正行研究員が、「保健指導のスキルアップ」をテーマに特定健診における行動変容のステージに応じた具体的な技術を紹介するとともにグループでの実践指導も行った。

参加者からは「すぐにでも活かせるような講演で良かった。」、「今後もこのような研修会を期待している。」との感想が寄せられた。